

【テーマ別セッション①】 アドボカシー「黙認から発信、そして行動へ」

開催目的

ローカルなテーマ、全国共通のテーマ、NPOとして活動する中で、不公正なさまにであったり、声をあげられず取り残されていたりという場面にであうことがあります。怒りや憤りを感じ、声をあげなくては！と思うことは少なくありません。しかし、日々の活動に追われ、やり過ぎてしまうことが多いのではないのでしょうか。発信、そして行動へのモチベーションの維持と展開手法を共有したいと思います。

参加者数

37名（会場 18名、オンライン 19名）

出演者

- 【事例提供者】石原 達也 さん（NPO 法人岡山 NPO センター 代表理事）
実吉 威 さん（公益財団法人ひょうごコミュニティ財団 代表理事／
NPO 法人市民活動センター神戸 事務局長）
関口 宏聡 さん（NPO 法人セイエン 代表理事）
横田 能洋 さん（認定 NPO 法人茨城 NPO センター・コモンズ 代表理事）
【コーディネーター】鍋島 洋子 さん（認定 NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
専務理事・事務局長）

出演者の発題・発表内容

＜アドボカシーのポイント＞

- ・関口さんは、いくつものアドボカシーの経験から、ポイントとして「場数」「勇氣」「根気」「信念」の4つを挙げた。また、「困っている人がいる」と言うだけでなく、「具体的に、誰が、どこで、どのように困っているのか、どのようにしたら解決するのかを伝えていくことが必要」と述べた。
- ・「誰が」ということに関して、当事者の声を拾うことが重要である。石原さんは、岡山県内で首長選挙の際にすべての候補者に公開質問状を送り、ウェブでも公開してきた。「当事者が動いていない取り組みは、ただのサービスでしかない」（石原さん）
- ・また、単に提案するだけでなく、事例を紹介して実現可能であることを伝えることも有用である。横田さんは、在留外国人の子どもたちの支援を通じて、「他県の先進事例などを紹介して、トップレベルでの決断を促す」ことをしてきた。
- ・さらに多くの人との連携が欠かせない。「関係者同士が知り合うことやいろいろな専門家と繋がること、ネットワークを作ること、チームとして受け止めること、組織として話し合う場を作ることが大事」（横田さん）

＜モチベーションの維持＞

- ・政治家や官僚の政策形成能力には限界があり、「NPO にアドボカシーが求められているという点では、むしろ追い風とも言える」（関口さん）
- ・ただし、アドボカシーは、結果が出にくい、または結果が出るまでに時間がかかるという点でモチベーションを維持しにくい。関口さんは「根気が必要。提案が通らなくてもいちいち落ち込まないこと」と言う。横田さんは「アドボカシーは長期戦だと覚悟するし



セッションの様子：左上から右下の順で、実吉さん、鍋島さん、関口さん、石原さん、横田さん

かない。行政が動いてくれなくても、自分たちで取り組んで実績を積み上げておく」と述べた。

- ・実吉さんは、「アドボカシーによって何かが変わるという感覚や、勉強して新たなことを知り、それを地域の人たちとシェアすると、モチベーションになる」と述べ、プロセスを共有することの重要性を指摘した。

討議の論点と明らかになった課題

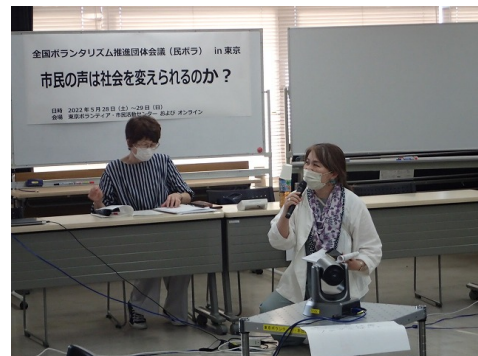
- ・まず、現行の制度・政策の問題点を把握し整理することが必要である。「活用できる制度をまず活用しることと、制度では解決できない問題を整理して、情報共有していきたい」（石原さん）
- ・世論を動かすためには、当事者だけでなく、市民社会全体に訴えていくことも必要。「そもそも何を提言するか、アドボカシーの目的は、“社会”の規定に大きく左右される。足りないのは“サービス”ではなく、“社会”ではないのか？」（実吉さん）
- ・アドボカシーによる提案を実現するには、提案先にその実施体制を作らせることが必要である。「学校や市役所などの組織の方針と体制を作る必要がある」（横田さん）
- ・中間支援組織によるアドボカシーの支援やアドボカシーのための助成金など、アドボカシーをしやすく仕組みをつくる必要がある。「アドボカシーが進まないことの理由にNPOの資金的貧困と時間的貧困がある。NPOがアドボカシーをしやすくするためのアドボカシーが必要」（関口さん）
- ・グループディスカッションでは、「現場が忙しくて、制度まで考えられない」「行政から委託費をもらうことで、アドボカシーをしにくくなっているのではないか」「NPO側でアドボカシーを前提にした勉強が必要だ」などの声が聞かれた。

企画者より

- ・「それって素敵やな。頑張ってるやれば形にしていけるんやな！」ということを感じて、あとは自分たちで時間をやりくりして、モチベーションを維持していく。ただし、一人ぼっちではくじけそうになるから、今日のような学び合ったり情報共有する機会が定期的に必要なのかな。今日をスタートにして、一緒にがんばりましょう！（永井）



会場の様子



鍋島さん（左）と永井さん

企画・運営

社会福祉法人大阪ボランティア協会（永井 美佳）

NPO 法人静岡県ボランティア協会（松尾 和光）

認定 NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（鍋島 洋子）

認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク（矢野 正広）